東アジア地域像の新構成

研究代表者　芳　井　研　一

1．プロジェクトメンバー

芳　井　研　一（代表者）

2．プロジェクト概略

本プロジェクトの目的のうちの一つの柱である東アジア地域研究に関する国際的学術ネットワークづくりの面を中心に，期間中に以下のような取り組みを実施した。これらにより期間中に目標とした成果は得られたといえるが，今後さらに継続的に追求する必要がある。

⑴　2005年度

①　人文学部の連続講演会の企画を本プロジェクトとしても支えるため，関連講師を招聘した。招聘研究者は，イ・グスティ・マデ・スチャヤ・ウダヤナ大学文学部・教授，曹錦清華東理工大学・公共社会管理学院・教授，栄新江北京大学・歴史学部・教授である。

②　人文学部主催の国際シンポジウム「東アジア文化研究の新潮流」(2005年10月22日～23日開催)を本プロジェクトとして支えた。招聘研究者は，宋成有･北京大学歴史系教授，李在光･仁荷大学校文科大学教授，林容澤･同前助教授，徐永大同前教授，沈海涛・吉林大学東北アジア研究院・助教授，朱自強・中国海洋大学文学院・教授，修斌・同前副教授，于文秀・黒竜江大学文学院・助教授である。

③　本プロジェクトの定例研究会として，３月22日に郭洪茂・吉林省社会科学院満鉄資料館長により「満鉄沿線の都市形成と人口移動」についての研究報告があり，参加者による討議が行われた。

⑵　2006年度

①　「第６回旧植民地資料に関するワークショップ」(2006年９月23日）の

開催を本プロジェクトとして支えた。このワークショップは，日本が関わったアジア諸地域に関する史資料の状況とこの時期の史資料の保存修復に関する報告からなっており，今後の研究の展開と資料ネットワークの強化に大きな役割を果たすであろう。

② 第２回:国際ワークショップ「中国東北と日本」(2006年９月24日）の開催を本プロジェクトとして支えた。このワークショップは，中国東北に関わる日本語文献を多数所蔵する中国の機関の資料状況の把握につとめると同時に，今後の国際研究協力推進のために行ったものである。

③ 人文学部主催の国際シンポジウム「東アジアの地域ネットワーク」(2007年３月24日開催)を本プロジェクトとして支えた。報告者は以下に示すように海外から５人，国内４人の計９人で，以下の通り。ゴスン・サイチャン（タイ国・チェンマイ大学社会科学部・教授)，アチャラー・パヌラット（タイ国・スリン地域総合大学・学長)，徐勇（中国・北京大学歴史学部教授)，曲金良（中国海洋大学教授，同大学海洋文化研究所長)，李起豪（韓国･聖公会大学大学院教授，平和フォーラム事務局長)，中村俊彦（環日本海経済研究所･調査研究部長)，山下研（新潟県県民生活環境部環境対策課･副参事)，山田一隆（京都・まいづる立命館地域創造機構・事業主幹，環日本海学会・事務局長)，渡邊登（新潟大学人文学部教授)。参加者は学内の教員･学生の他，新潟国際情報大学など近隣の大学教員・学生，関心のある一般市民が参加した。

④ 本プロジェクトの定例研究会として，2006年11月29日，林嵐（中国・東北師範大学教授)「芥川小説『首が落ちた話』と『虞初新誌』」を開催した。日本と中国の文学における相互影響と文化受容に関する報告であった。また2007年２月22日（金）の定例研究会では，宋芳芳「中国における災害史研究の動向」，太田肇「東北アジアの環境と開発に関する研究状況」の報告があった。さらに同年３月26日の定例研究会では，陳祥「環境史の視点から阿賀野川の公害問題を考える」の報告があった。

(3) 2007年度

人文学部等主催の国際シンポジウム「東北アジア地域ネットワークの歴

史的構成」を2007年10月20日（土）･21日（日）に開催し，本プロジェクトとしてこれを支えた。報告者は以下の通りである。韓文鍾・全北大学校人文大学史学科副教授，蒋非非・北京大学歴史学部助教授，修斌・中国海洋大学文学新聞伝播学院教授，山内民博･新潟大学人文学部准教授，沈海涛･吉林大学東北アジア研究院助教授，井村哲郎・新潟大学人文学部教授，兒嶋俊郎・長岡大学経済学部教授，塚瀬進・長野大学産業社会学部准教授，牛大勇・北京大学歴史学部長，左玉河・中国社会科学院近代史研究所文化史研究室副主任，兪慰剛・華東理工大学公共社会管理学院副院長，芳井研一・新潟大学人文学部教授。

⑷　2008年度

①　漢陽大学－新潟大学国際学術セミナーを本プロジェクトが協力して2008年10月18日（土）･19日（日）に開催した。テーマは「境界をめぐる諸側面」である。報告者は以下の通りである。鈴木孝庸（Niigata Univ），Ha-mie Chung（Hanyang Univ），Philip C. Brown（Ohio State Univ），田永秀（中国･西南交通大学），太田肇（Niigata Univ），小森暁生（Niigata Univ），Ae-kyoung Kim（Hanyang Univ），Sung-hee Kim（Hanyang Univ），Joo-youn Kim（Hanyang Univ），Hye-kyong Jeon（Hanyang Univ），Su-jin Oh（Hanyang Univ），Sang-ok Lee（Hanyang Univ），Young-cheol Kim（Hanyang Univ），渋谷裕紀（Niigata Univ）。

②　国際ワークショップ「近代中国と満鉄－満鉄史研究の現状と展望」を2009年２月８日・９日に開催した。報告者は以下の通りである。岡部牧夫（著述業），伊藤一彦（宇都宮大学教授），江田憲治（京都大学大学院人間･環境学研究科教授），武向平（中国･吉林省社会科学院満鉄資料館），飯塚靖（下関市立大学経済学部教授），山本裕（九州国際大学社会文化研究所客員研究員），柳沢遊（慶応大学経済学部教授），井村哲郎（新潟大学大学院現代社会文化研究科教授），兒嶋俊郎（長岡大学経済経営学部教授），松村高夫（慶應義塾大学名誉教授），平山勉（映画専門大学院大学映画プロデュース研究科専任講師），江田いづみ（慶應義塾大学経済学部非常勤講師）。

⑸　2009年度

①　定例研究会を2009年10月２日に開催した。広島大学大学院文学研究科教授の川西英通氏が「『東北』への道－東北史の可能性－」について報告した。

②　2009年11月14日（土）15日（日）に開かれた国際ワークショップ「東北アジアにおける社会的生活基盤の形成」の開催に協力した。 講演者は歩平中国社会科学院近代史研究所長で，報告者は曲暁範・中国東北師範大学歴史学部教授，武向平・中国吉林省社会科学員満鉄資料センター助理研究員，殷志強・新潟大学大学院現代社会文化研究科，広川佐保・新潟大学人文学部准教授，陳祥・新潟大学大学院現代社会文化研究科，宋芳芳・新潟大学大学院現代社会文化研究科，金白永・韓国光云大学校教養学部助教授，広瀬貞三･福岡大学人文学部東アジア地域言語科教授，橋谷弘・東京経済大学経済学部教授，大宮誠・新潟大学大学院現代社会文化研究科，平原かや子･新潟大学大学院現代社会文化研究科，太田肇･新潟大学大学院現代社会文化研究科，戴宇・吉林大学東北アジア研究院教授，芳井研一・新潟大学人文学部教授，である。

３．プロジェクトの成果

本プロジェクトの成果として公表した関連研究論文等の本数は，以下の通りである。

⑴　2005年度：10

⑵　2006年度：９

⑶　2007年度：12

⑷　2008年度：20

⑸　2009年度：11

各年度のプロジェクトとしての研究成果は『環日本海研究年報』第13～17号，および『環東アジア研究センター年報』第１～５号にそれぞれ掲載した。本期間に継続的に成果を公表することが出来た。これらを基にさらに成果を公表していく予定である。